

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人看護技術		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年次		学期及び曜時限	前期	教室名	各教室
担 当 教 員	岡田 香代子	実務経験と その関連資格	総合病院の消化器外科病棟・外来、医院(有床)で看護師として勤務			
《授業科目における学習内容》						
成人援助論で学んだ知識を基盤として、成人看護学実習Ⅱ・Ⅲに活かせるように、事例を用いて周手術期・終末期にある患者の援助の必要性和根拠を考え看護技術を学ぶ。患者の個性・状況を捉え、潜在的な合併症や安全に対する予期的な認知力を高めること、終末期にある患者への苦痛の緩和・安楽な援助計画を立案し看護実践できる。						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況、出席態度、課題提出状況、演習評価(学生・教員)50%、筆記試験50%で総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
①系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 ②系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院 ③系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 ④系統看護学講座 臨床外科看護各論 医学書院 ⑤系統看護学講座 がん看護学 医学書院 ⑥系統看護学講座 緩和ケア 医学書院 ⑦系統看護学講座 呼吸器 医学書院 ⑧よくわかる周手術期看護 学研						
《授業外における学習方法》						
既習した学習を統合し、臨地実習前に事例をもとに手術を受けた患者の術後の看護援助の学習。手術及び全身麻酔による術後の合併症について復習しておく。終末期にある患者の苦痛の緩和・安楽な体位の看護援助を学習しておく。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床で経験する看護援助の場면을事例で提示し成人看護学実習Ⅱ・Ⅲで実施できるようにしましょう。主体的に学習に臨みましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人看護技術を学ぶ目的がわかり、学習内容と今後の動き方がわかる。	系統別看護学講座(臨床外科総論、臨床看護技術、消化器、よくわかる周手術期看護)	提示した事例を学習し、演習に取り組めるように事前学習をして、次回に望む。	
		各コマにおける授業予定	成人看護技術の概要、到達目標、学習内容、進め方の説明 事例提示、グループワーク			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	手術後の患者に対して看護援助の必要性とその根拠を考え、看護援助の実施できる。	系統別看護学講座(臨床外科総論、臨床看護技術、消化器、よくわかる周手術期看護)	周手術期に必要な看護、看護技術(点滴管理、寝衣交換)、フィジカルアセスメント、術後の観察項目を復習しておく	
		各コマにおける授業予定	事前学習:看護計画の立案 看護計画(看護技術)の実施			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	手術後の患者に対して看護援助の必要性とその根拠を考え、看護援助が実施できる。	系統別看護学講座(臨床外科総論、臨床看護技術、消化器、よくわかる周手術期看護)	周手術期に必要な看護、看護技術(点滴管理、寝衣交換)、フィジカルアセスメント、術後の観察項目を復習しておく	
		各コマにおける授業予定	看護計画(看護技術)の実施 振り返り、計画の修正			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	手術後の早期離床を目的とした看護援助を考え、看護援助が実施できる。	系統別看護学講座(臨床外科総論、臨床看護技術、消化器、よくわかる周手術期看護)	周手術期に必要な看護、看護技術(点滴管理、寝衣交換)、フィジカルアセスメント、術後の観察項目を復習しておく	
		各コマにおける授業予定	看護計画(看護技術)の実施 全員終了後振り返り 発表に向けて看護計画の修正			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	手術後の早期離床を目的とした看護援助を考え、看護援助が実施できる。	系統別看護学講座(臨床外科総論、臨床看護技術、消化器、よくわかる周手術期看護)	周手術期に必要な看護、看護技術(点滴管理、寝衣交換)、フィジカルアセスメント、術後の観察項目を復習しておく	
		各コマにおける授業予定	事前学習:看護計画の立案 看護計画(看護技術)の実施			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	術後の看護援助を実施し、援助の振り返りができる。	系統別看護学講座(臨床外科総論、臨床看護技術、消化器、よくわかる周手術期看護)	周手術期に必要な看護、看護技術(点滴管理、寝衣交換)、フィジカルアセスメント、術後の観察項目を復習しておく
		各コマにおける授業予定	看護計画(看護技術)の実施 全員終了後振り返り 発表に向けて看護計画の修正		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループで展開した事例を発表することができる。他のグループとの看護の違いに気づき、説明することができる	事前学習 看護計画 看護実習室使用	周手術期に必要な看護、看護技術(点滴管理、寝衣交換)、フィジカルアセスメント、術後の観察の実施を評価する。
		各コマにおける授業予定	看護援助の発表:手術後の看護援助場面1・2、グループ毎、全体での振り返り、振り返りシート		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	終末期の患者に対して、苦痛の緩和の看護援助が実施できる。	系統別看護学講座(成人看護学、臨床看護技術、呼吸器、緩和ケア、がん看護)	事例患者の疾患、状態の把握、終末期にある患者の苦痛の緩和の援助を学習をして臨む。
		各コマにおける授業予定	事前学習:看護計画の立案 看護計画(看護技術)の実施		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	終末期の患者に対して、苦痛の緩和の看護援助が実施できる。	系統別看護学講座(成人看護学、臨床看護技術、呼吸器、緩和ケア、がん看護)	終末期にある患者の苦痛の緩和・安楽な援助を考えて演習に臨む。
		各コマにおける授業予定	看護計画(看護技術)の実施 振り返り、計画の修正		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	終末期の患者に対して、苦痛の緩和の看護援助が実施できる。	系統別看護学講座(成人看護学、臨床看護技術、呼吸器、緩和ケア、がん看護)	終末期にある患者の苦痛の緩和・安楽な援助を考えて演習に臨む。
		各コマにおける授業予定	看護計画(看護技術)の実施 全員終了後振り返り 発表に向けて看護計画の修正		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	終末期の患者に対して、苦痛の緩和の看護援助が実施できる。	系統別看護学講座(成人看護学、臨床看護技術、呼吸器、緩和ケア、がん看護)	終末期にある患者の苦痛の緩和・安楽な援助を考えて演習に臨む。
		各コマにおける授業予定	事前学習:看護計画の立案 看護計画(看護技術)の実施		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	終末期の患者に対して、苦痛の緩和の看護援助が実施できる。	系統別看護学講座(成人看護学、臨床看護技術、呼吸器、緩和ケア、がん看護)	終末期にある患者の苦痛の緩和・安楽な援助を考えて演習に臨む。
		各コマにおける授業予定	看護計画(看護技術)の実施 振り返り、計画の修正		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	終末期の患者に対して、苦痛の緩和の看護援助が実施できる。	系統別看護学講座(成人看護学、臨床看護技術、呼吸器、緩和ケア、がん看護)	終末期にある患者の苦痛の緩和・安楽な援助を考えて演習に臨む。
		各コマにおける授業予定	看護計画(看護技術)の実施 全員終了後振り返り 発表に向けて看護計画の修正		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループで展開した事例を発表することができる。他のグループとの看護の違いに気づき、説明することができる	事前学習 看護計画 看護実習室使用	終末期にある患者の苦痛の緩和・安楽な援助の実践を評価する。
		各コマにおける授業予定	看護援助の発表:苦痛の緩和の看護援助場面1・2、グループ毎、全体での振り返り		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	手術を受ける術後の回復に向けての合併症予防のための看護と終末期にある患者の苦痛の緩和、安楽な援助が説明できる。	自己学習ノート 看護計画	自己の看護計画(看護技術)をまとめる
		各コマにおける授業予定	まとめ		